

11 2 3 4 5 6 7 8 9 21

日一十月四年三十正大

# 報情外内

號二百第

九  
九

## 目次

(非  
轉  
載  
品)

支那	直系團結の新政策……………一	比島ナショナル銀行製糖所の産糖状況……………三
	直系内部の二種團結評……………三	佛領印度支那
	臺灣銀行債務交渉の結果……………四	交趾支那フーチュック島に於ける椰子栽培(下)……………五
	王永泉出走後の圖局……………六	英領印度
	王永泉の實力と失敗の原因……………九	英領印度製糖業の現状と其海外貿易(上)……………一〇
	福建近情……………二	其 他
	廣東南北争戦後配電の三十一……………六	錫蘭に於ける護謨道路築造試験……………九
	刻用煙草の栽培法……………三	佛領老撾人種別人口一覽表(其一)……………(表五)
比律賓	比島に於ける飛蝗驅除用飛行機購入……………三	佛領老撾及廣洲灣人種別人口一覽表(其二)……………(表六)

臺灣總督官房(調外) 課査

□佛領老撾人種別人口一覽表 (其二)

省名	種族名		歐洲人	老撾人	安南人	支那人	カー人	ムン人 及 ムア人	タイ人	苗人及 スリ 人	其他	合計
	名	数										
Attopen			三	九八〇	二七〇	三	四三五〇					五八四〇
Passae			三	三三三	六九九	八二	五九〇〇					七二五九
Tuej de Khong			一	三三六	一五〇	三〇	一〇〇〇					一四六六
Cammou			三〇	三三三	七五〇	七五	五〇〇〇					六八五〇
Haut Mekong			一	一〇〇	一〇〇	八	一〇〇〇					二七〇
Dej de Muang Sing			一	一〇〇	一〇〇	一〇	一〇〇〇					二七〇
Houa Phan			一	一〇〇	一〇〇	一〇	一〇〇〇					二七〇
Luang-Phabang			一	一〇〇	一〇〇	一〇	一〇〇〇					二七〇
Dej de Paklay			一	一〇〇	一〇〇	一〇	一〇〇〇					二七〇

備考 カー人位にタイ人中には各支族及び類似族を含む。(一)安南人老撾人の混血人。(二)支那人老撾人の混血人(一七を含む)。(三)東埔寨人二〇〇、ビルマ人一四。(四)東埔寨人二〇、ビルマ人六。(五)フウチヤン人。(六)コス人、タイ人、ラテーム人、カー人等を含む。(七)フオンク人及フオン人。(八)暹羅人を含む。(九)フアム人。(一〇)カー人を含む。

情報

支那

□直系團結の新政策

吳佩孚は近年來中原を囊括し聲勢最も熾なるは一般人士の共に知る所なるが、海軍北歸し、滇軍投降せしより、實力既に大に、忌むもの甚だ多し。且吳の自信すること餘りに深ければ、常に人に乘すべきの隙を與ふるを以て、遂に漸く四面楚歌の境に入りぬ。洛陽吳氏の手懸に掛けし蕭耀南張福來李濟臣の輩の如き、吳下嫡流の系に非ずと謂ふべからざるに、湖北の蕭は吳が事々干渉を事とせるを不快とし、早已に面従腹非の情を示し、最近兩湖巡閱使は當然京漢鐵路の協餉を得べき筈なるに、吳は更に手放しせず。此れ蕭の最も不快とする所なり。然るに蕭氏は閱歴稍深ければ圭角を露はさず、意見あるも蘊藏して外に發せず。故に外間其の事を知るもの尙少し。張福來と張鳳臺とは意氣頗る投じ居れば、吳氏は必ず易ふるに李濟臣を以てせんと欲し、且省署を洛陽に遷さんと欲す。張は元來粗笨の人物なれば、もはや心に安する能はず。しかも吳氏は事に遇ふ毎に申斥し、遂に張が直ちに公府に向つて辭職するを致せり。張云ふ、團長たるの時に當りては、吳氏が加ふるに軍棍を以てすと雖も、すべて受くるを願ふ所なるも、

今や名義上一省の軍を統轄するものなるに、尙や、もすれば掣肘を受け、時に申斥を加へらる。其れ部下の輕視するを如何せん。曹錕氏は之を慰諭すと雖も、積憤の在る所一時之を消滅せしめ易からず。李濟臣の如き省長に任せられて未だ久しからず、又左右を離れざれば、宜しく相安すべきが如くなるも、同じく任免問題に因り屢牽掣を受けたれば、亦已に歡ばざるの色あり。況や吳氏は飲酒高歌を喜び、酣醉の時に當る毎に、輒ち謂ふ、一たび督軍省長となれば皆官を賣り爵を鬻ぎ、其の良心をも賣却し去るものなりと。吳氏に在りては老將軍の常談たるも、左右に伺候するの督軍省長は如何んぞ之を忍び得ん。此れ其の嫡系人物の疎隔日に深き所以なり。又次に困難なるは海軍界の問題なりとす。支那海軍は部長より士卒に至るまで、從來閩粵兩省人の請負となり居ること已に久しく、外省人の此の間へ割り込むこと甚だ難し。温樹德が北歸の時に當り、其の甚だ遅延せしは杜錫珪の條件未だ協はざるが爲のみ。當時杜は洛陽吳氏の下に在り、吳氏は元來之を岐視するに意なきを以て杜も安心し居たりしに、温の來りし後、之を膠州灣に歸らしめ、籌款に便ならしめんとしたり。此れ温が本と山東人なればなり。然るに事大に齟齬し、膠濟鐵路より毎月五萬の協餉を得んとしたるに、それから反對頻りなれば、吳は如何ともしがたく、一意温の爲盡す所ありき。故に杜は心に平なる能はず、烟臺衝突案に藉りて府院に向ひ辭職を申出づること一再ならざりき。是に於て杜が渤海司令の命は院中

に留め置となり、杜温の衝突は間接よりして直接に轉せり。又更に交通界に在りては元來別一系統あり。海軍の嚴重に區別せらるゝが如くならざるも、若干の關係を有せざる時は發展し易からず。吳氏は既に株萍路を以て譚道南に與へ、復た隴海路を趙德三に與へて張祖廉を一隅に押し遣れり。趙の始めて引繼ぐや、亦更に數人を引いて之に參與せしめたるが、落選者の中にも若干の勢力あるものありて、亦心に平なる能はず、自然に路務に影響を及ぼせり。此の外江蘇浙江問題の如き、齊燮元吳佩孚間に疎隔あり。益すに杜錫珪張祖廉の輩の齊氏に接近せるを以てし、湖北の蕭氏も亦稍人と聯絡せるの狀あり。此の如くして進まんか。直系の編裂は日に甚しく曹氏も心を安する能はざるに至れり。故に曹氏は先づ馮玉祥王懷慶及び洛吳の部下をして天津の王氏に聯絡せしめ、之に繼ぐに交通吳毓麟の巡遊を以てせしめたり。之によりて言ふに、吳毓麟の任務は、第一に杜温をして疎隔ならしめ、第二に交通界をして安心し業に服せしめ、第三に南京と洛陽とをして各相諒解せしめ、以て洛吳の嫡系に歸結し以て分裂を避けしめんとたり。さればこそ今回の行たる北京よりして洛陽、これより轉じて隴海に赴き、津浦に至り南京を訪ひ、大江を溯りて上り、湖北を以て終點とはしたるなれ。(二月二十八日—廣州共和報)

□直系内部の二種團結評

最近直系は四圍の空氣惡しきに鑒み、内部の團結を謀り居れるが、同時に洛陽の吳子玉も亦力めて直魯豫三省内部の團結を謀りつゝあり。此の二種の團結は範圍に大小の別あるのみならず、其の精神を語れば、前者は調和的と爲し、後者は兼併的に近しと爲す。調和的の法は武人專横の世に適せず。兼併の説は力強きもの常に功ありて、其の收效も亦前者よりは大きなり。然れども將來直系の敗亡を救ふに足らざるなり。最近吳馮の交歡は全く直系の疏通に在りと傳へらるゝも、吾が聞く所を以てせば、是れ最近の將來に吳子玉が喉を中央政局に置かんと欲する伏線にて、其の一朝事あるに當り、馮玉祥必ず其の賛成者と爲らん。しかも竟に吳氏に先ちて發言するやも定むべからざるなり。又吳毓麟南下に關し説を爲すものは云ふ、吳子玉齊燮元温樹德杜錫珪を調和せしむるの使者となるものと。此れ或は近似の説たらん。然れども吾が聞けるところによれば、直系の調和を要すべきは江蘇の齊氏と江西の蔡氏との甚しく急なるに如かず。其の勢實に旦夕に迫れり。其の關係又僅に齊蔡二人の調和に従ふや否やに在らずして、直系内部團結の必ず功なきに終るもの實に此を以てなるを斷言すべし。夫れ齊氏の江西省を視る私産の如くなるは、洛吳の不滿とする所なるは言ふまでもなし。然るに齊氏が江西省を用ひんと欲するには必ず目的あり。而して蔡成助の部下は其の分子甚だ複雑にして之を用ふるに堪へざる譯あり。蓋し第一師團は其の成立最も久しく、軍官の更迭も最多し。其の舊來の分子は北

洋六鎮の習に狃れ、後輩を輕視し居れるは、實に調和の道なきものなり。近日新に江西より來れるものあり。曰ふ、蔡の部下には一種新流行の論調ありと。而して其の略を述べれば、云ふ、北洋六鎮中、第三鎮は已に一の總統と一の巡閱使を出し、第二鎮亦一の巡閱使王占元を出し、第五鎮には一の總理靳雲鵬を出し、第六鎮又新に一の巡閱使を出し、六鎮中未だ大人物を出さざるものは唯第四鎮のみ。吾が第四鎮は前に總統馮國璋を出し、一時は震耀せしと雖も、今は式に微なり。應に第四師と同病相憐むべし。何ぞ他人の牛馬と爲るべけんやと。此の種の論調より觀るに早已に將來世變の趨勢を測知すべきなり。吳子玉の長ずる所は、其の軍を治むるに、素とより下に結び上を凌ぐを以て手段とするに在り。故に團長以下は皆吳氏の深く結ぶ所なり。或は軍官が滑稽交りに吳氏を評して、直系軍官が吳副使の三字を勢強く呼ぶものは、必ず團長以下に在りといへるを視て、其の眞實を知るを得ん。近日吳氏が直隸の大權を收攬するに手に物を取るが如き狀あるは、實に此の法を用ひたるなり。只山東方面の聯絡だけは未だ確實に此の域に至らざるを憾とするのみ。吳氏は山東に對し、第一に旅長を手に入れんと力め居れり。故に山東の旅長已に洛陽に近づくもの頻々たり。而して第二に現はるゝは其の年來陣法を實驗せる團長營長に聯絡し、終には吳氏親しく山東に來るに至るべく、かくて熊炳琦の地位は、必ず吳氏が軍人に聯絡する犠牲とならん。山東省の財政權は必ず全く吳氏の掌握に歸し了らん。

故に我は謂ふ、洛吳の内部團結は兼併的に近きものと。(三月四日—福建日報)

### □臺灣銀行債務交渉の結果

福建省借入の口債は林熊祥の三百萬元を除くの外、尙臺灣銀行に向ひ、日本金貨六十萬元を借入れあるが、今に至るまで尙元利共に返還されざる爲、該銀行は遂に駐京日本公使に請ひ、財政部に向ひ交渉せんことを請ひたれば、日本公使より財政部へ交渉せしところ、財政部は此程咨文を發し、福建省長公署に省より返金を爲し信用を全うせしむるやう取計ひたれば、福建財政廳は之を調査せるに、該債款は林前廳長より去年五月より毎月一千六百元づつ、償還の手續を踏むことになしありしが、該省財政大窮迫の結果未だ償還に至らざりしものにて、改めて本年二月より毎月勉めて一千六百元宛を籌出し返還に充て交渉を免るゝことゝなす筈なりといふ。(三月二日—福建日報)

### □王永泉出走後の閩局

王の出走前の軍議 王永春は李生春より發せる最後通牒に接せし後、直ちに幫辦署に於て臨時緊急會議を召集したるに、列席者僅に王及び其の弟永彝と參謀長楊傑副官葛樹森等數人に

て、良計も案出せざりき。此の時王は忽ち省署に電話を掛け薩省長の臨席を請へり。薩省長は驅王の事に對し、元來知る所なかりければ、直ちに駕を命じて往きたるも、此の時王の側に侍せる三姨太及び左右のもの皆謂ふ、薩氏を挟みて孫氏に抗するも何の爲す所もなく、多く時間を延引せば、必ず危険を生せん。故に速に去るに如かずと。是に於て前に招きたる省長の來るに及び、却りて拒んで返らしむるに至れり。

王の備を設けざる原因 今次孫が倒王の計を爲せるは、全く孫の深謀遠慮に出でたるものにて、王は最近數日内漸く之を知る所ありしも、猶は孫の意にあらずして、全く周蔭人の計ならんと思ひ居し程なり。蓋し王のかく考へしは無理からぬ事にて、孫が出發前には極めて王に對し好感を有し、且つ王に向つて軍餉三十萬元を借用し、竝に謂ふ、弟(孫氏自ら謂ふ)が部の閩邊に出發する、所有延平以下の防地は老兄より隊を派して填防されたしと。是に於て王は以爲へらく、孫の出發は全く對外問題の爲ならん。然らざれば延平の如き上游重要地を他人に主管せしめざるべしと。故に慨然之を許し、復た砲兵一團を派して孫に隨ひて出發せしめ、延平一帶の地を填防せしむ。乃ち其の省垣馬石山于山屏山上に設置せる大砲三門をも該砲團に携帶せしめたり。然るに未だ延平に到らざる前、直ちに孫の爲全部之を押收されたり。又王の副官長丁鴻謨副官王鳳章は是の時江西省より銃器軍械を護運して福建に向ひつゝありしが、將に

延平に至らんとする時、王に打電して云く、已に延平を經過したれば、五日内には省城に到着すべしと。王は此の電報を受けて、愈周陸人の心を信じて居たり。然るに該銃器軍械の延平を離るゝ十餘里なる下道地方に至るや、孫氏の伏兵に突然截留されたるも、一切水陸交通断絶されある際とて、王は全く事變の發生を知らず。何の準備も爲し居らざる爲め、結局逃走の外なき情況となれるなりといふ。

倒王後の閩浙政局 今次の驅王は孫周聯合の結果にして、孫は固より王永泉を去るの志ありしも當時王は民軍と結合し居り、容易に之を動かすこと能はざるを以て隱忍し居りしのみ。然るに近來に至り王の罪日に彰著となりたれば、對浙入贛を名として其の備を弛べて圖るに至りしなり。又一説には、孫は固より福建に留る意なきも、王が督理を繼ぐを喜ばず、周亦王と兩立せず。故に機に乗じて之を倒し、周をして督理を繼がしめんとするなりといふ。是に於て孫の對浙對贛は是より漸く實行に出でん。此れ三省間に風雲の起らんとする前兆なり。

海軍の助孫倒王 原因に三あり。(一)海軍は王永泉が前に劉冠雄に反對したるが爲、切齒扼腕し居れるより、今回其の報復の機會を捉へたるなり。(二)楊砥中は海軍の旅長として、新に孫傳芳を拜して老師と爲せり。此れ理として其の勞に服すべきなり。(三)陸戰隊直に師團を編成せんことを謀り居れり。若し王永泉の軍械を得ば海軍も當然數百挺の銃器を得べき筈なれば

なりといふ。

周の截留せし王の軍械數 王永泉が天津より購入せる快銃五千挺、大砲八門、子彈五百萬は悉皆周の爲押收せらる。

王の狼狽 王は諸事齟齬し大勢已に去るを知り、遂に弟及び眷屬親信の者と、先づ避けて南臺青年會に至り、同會より電船に乗じ、南港に上陸したるが、狼狽の餘水に落ち漸く衛兵の爲助けられ、殘兵千餘人と莆田知事黃湘に案内せられ、上渡黃山を経て福清方面に向ひ去る。此れ三月六日夜十二時より翌午前五時迄の情況なり。(三月十三日—新聞報八日福州急信)

### □王永泉の實力と失敗の原因

王永泉所部の實力を解剖せんに、第一旅姜明經所部(去年新編の兵)は現に福清莆田の各縣に駐り、旅團司令部は涵江に設けらる。又第二旅楊化昭司令の所部は現に同安馬巷の一帶に駐る。是れ王永泉が嫡系軍隊なり。次に第三旅劉春臺所部は同じく王の嫡系軍隊にして、第四旅王永彝部亦然り。皆現に晉江一帶に駐り、第五旅高義の所部は現に泉州に駐る。(張清汝の所部の改編されたもの)。第六旅吳威の所部(民軍改編)は現に仙遊に駐り、第二十四旅傅司令所部(王氏嫡系軍隊)第一團林壽國所部(民軍改編)及び其餘砲兵徐團工兵王團等多く新編に係り。尙

前緝私營改編の曹段兩團あり、新に招ける徒手兵の省に至るものは、補充營砲隊機關銃連と爲さん考にして皆未だ訓練されず。而して王永泉氏は涵江より電報を發して云ふやう、日を死して泉州に赴き巡視を爲さん。一たび緒に就かば即日省城に返らんと。但し此の後能く此の電報の如くなるを得るや否やは不明なり。今次王氏が失敗せるには三の原因あり。一は王氏の人と爲り暴戾なること是なり。王氏は性燥急にして、動もすれば頻りに怒を發し、署中副官以上のものと雖も屢々王氏に拷責さるゝことあり。秘書と雖も少しく錯誤あれば亦面斥して些の餘地を留めず。是を以て部屬多く王氏と接談せず。故に外面に如何なる奇聞あるも耳目となりて靈通するものなければ、外間の情勢に昧し。此れ王氏失敗の一原因なり。又二には羣小の爲め包圍せらるゝこと是なり。王氏の性偏激にして又諛辭を好む。故に羣小雜進し意思を迎合し、暗中に權を執り至らざる所なし。尤も副官處を以て甚しと爲す。而して中間に居て畫策するものは智囊と稱せられたる印花處長柯某是なり。又第三には惠安人民の屠殺是なり。されど此れは王氏失敗の遠因なるが、其の近因は惠安を屠戮し大に民心を失ひたることにて、王氏と他方面との關係亦人の窺知する所となり、終に今回の事あるに至れり。(三月十二日福建日報)

王永泉は本と湖北前清新軍第八鎮工程營の號兵なるが、文字を知れる廉を以て留日學生に拔擢せられ、日本士官學校に入學し、卒業歸國の上、三たび遷りて第八鎮工程營管帶と爲る。革

命後徐樹錚(時に徐氏は陸軍部總務廳長に任せられあり)に資縁して陸軍部技正に充てられ、上海在留の偵探となれり。民國三年革命黨を獲たるの功を以て、徐氏の賞識を得、徐が奉軍副司令に任せられたる時、乃ち王を抜いて奉軍第二十四混成旅々長と爲せり。民國七年援閩の時、出兵費二十萬元を得て閩省に入り、後又延平に盤踞し、百貨捐を強制抽收して私囊を肥せり。王氏の性は浮躁にして滑動なり。故に安徽系の敗るゝや徐倒れたるを以て王の勢已に其の一半を失へり。即ち奉倒れ直轄たるに及び、王氏は殆ど喪家の狗の如し。民國十一年、閩督李厚基が王を圖らんと思ひ居れるを、早くも知りたる王は、何成濟(今日の東路討賊軍總指揮)の紹介にて許崇智と合し、李厚基去るや王初めて徐氏を拒ぎ徐氏の建國軍之に因りて消滅せり。故に徐氏は之を怨めり。許崇智去るや王氏は直系に降りたる爲め五木先生(林森)倒るゝことゝなり、國民黨は王を恨めり。前月に至り、洛陽の吳氏は王氏翦滅の方畧を授け、急に一撃せられて今回の如く見苦しき逃走を見るに至れるは、王氏が直系に信せられざる結果なるを知るべし。(三月十五日福建日報)

福建近情

王永泉の聚斂二千萬元 王永泉が閩省に在りて聚斂せしところ、共計銀二千餘萬元に達し、

内七十萬元は華南銀行に預け、餘は悉く天津の永玉銀行に預けあり。

王部の要索 王永泉部旅長姜明經は、十一日晚、莆田に到着、商會に向ひて十五萬元を要索し、又王部劉團は福清に在りて潰退せる時、大に搶掠を肆にし、地方の損失甚だ大なり。

周の踪跡 周蔭人は即日涵江に赴くこととなり、十二日、周部一團は續いて興化に向ひ出發し、閩侯縣に入夫を備へしむべく命じたり。

洛吳の周蔭人獎勵 洛陽の吳佩孚氏は周蔭人に打電して云く、王永泉は屢政變を激し、罪狀昭著なれば大に之を討伐するは深く同情を表する所なり。已に齊燮元蔡成助の兩師團に電請するに合力協剿を以てしたりと。(以上三月十二日福州電)

各軍王を攻めんとす 聞く王永泉は十一日晚に泉州に到着せり。張毅は連日兵を調して同安馬巷に向つて進發し、王永泉を攻めんと欲し、双方將に接觸せんとす。張は又十一日に集美に在る防軍を引き抽きて前方に赴き、王獻臣亦一致して兵を調じ王永泉を攻め、高義陳國輝亦聯合して王永泉を攻めんとす。聞く王永泉は委員を派し、孫中山許崇智に向つて援を乞はんとすといふ。

民軍は王永泉維持歎 張毅は一萬元を以て民軍楊漢烈に運動し、兵を出し王永泉を會攻せんことを求めたるが、民軍の各首領は王永泉敗れば、全省は直系の爲統一せらるることとなり、

民軍に活動の機會を與へざるを恐るゝを以て、王永泉を支持することを決意せりと聞く。

漳州聯軍の移動 漳州の聯軍は頻りに調動せられ、張毅は出發して王永泉を攻め、同安は王獻臣より接防し、賴世瑞亦移りて海滄に駐れり。

王の運動 王永泉は興化、福星の二汽船により兵を運んで泉州に赴き防備を布き、十二日正午、秀塗港に到着せり。

王臧合力の傾向 王永泉は臧致平に打電し、委員を派し、宋淵源と共に泉州に赴き、兵を出して解救せんことを請ひたるが臧は王永泉亡びば、己亦必ず免かれざるを知るものから、意願する王を助くることに傾けり。(以上三月十二日廈門電)

周主張の王永泉協剿 孫傳芳は王獻臣張毅に急電を發し、周蔭人に會同して、王永泉を協剿せしめたるが、王獻臣軍は實力充實せざるに、恰も其の衝に當ることとなりたれば、王永泉の反攻甚だ亟なりと聞き、特に參議劉祥禎を派して江寧及び江西に急行し齊燮元及び蔡成助に向ひ援を乞はしめたり。

王の反攻 王永泉は泉州に在りて部屬を召集し、軍事會議を開き、一致議決すらく、孫傳芳及び周蔭人を驅逐せんと。即日反攻に移れり。(以上三月十三日福州電)

王臧出兵反攻 王永泉の代表王右箴は十三日光雲錦と共に上海より廈門に來り、宋淵源の代



表某亦泉州より返る。皆云ふ、王永泉は臧致平及び民軍に救援を請ひ、其の代償として興化泉州地方を譲ることゝし、一致して孫傳芳を驅逐せんと。臧は委員を派し、宋淵源と共に泉州に赴き、竝に張貞と計畫を共にし、一週間に兵を出し、張毅王献臣を攻むることを許せり。

張毅馬巷を占む 十三日朝、張毅は馬巷を占領せり。王永泉の部は困りて退いて安海を守れり。

宋張葉の牽制 十二日、宋淵源張貞は民軍に勸めて泉州を攻むる勿からしめ、又同安の葉定國をして張毅を牽制せしめたり。

臧の出兵 臧致平は委員を派して兵を點檢し、出發の準備中なり。

高義孫に従はず 王永泉部の旅長高義は、已に孫傳芳の利用運動を受けず。中立せり。(以上

三月十三日—廈門電)

臧の渡海攻漳 臧致平は定めて十六日、三路を分ちて海を渡り、漳州同安を攻むることゝし、一は嶼仔尾より、一は嵩嶼より、一は排頭集美よりし、竝に宋淵源より泉州附近討賊第八軍に通知し、張貞よりは漳州附近の討賊第八軍に通知し、張毅王献臣を夾攻すべし。此頃同安の戦地よりの確報を得たるに云ふ、張毅は十三日午後三時馬巷を攻めて克たず、又王献臣軍至り、兩路を分ちて包抄し、十時に至り、王永泉部始めて退いて小營嶺坡仔頭を守る。張部は進んで

馬巷新墟を占む。張部の死者には曲團長李營長の二人あり。團長安且煥は銃に中りて傷き、軍士の死傷七八十人あり。王部の俘にせられたるものには營長張某、及び排長六七人あり。死傷未詳。

臧宋張の海軍電勸 臧致平は宋淵源張貞と及び討賊第八軍旅長以上の軍官連名を以て電報を發し、海軍楊樹莊に勸むるに、閩人治閩の主義に本き、通同合力し、共に孫傳芳周蔭人を驅逐せんことを以てせり。

周蕭田を占む 周蔭人は十四日蕭田を占め、王永泉部は楓亭に退けり。

蘇頼の戦 蘇世安の部は頼世瑤の部と戦へるが、馬巷は亦王永泉に奪回されたりとの説あり。(以上三月十五日—廈門電)但し、後に聞く所によるに王永泉軍は未だ馬巷を得ずといふ。(十六日電)

福州佛化社の組織 近頃熱心なる佛教家李昇楊氏等は佛學を研究して頹風を挽回するを以て目的とし、一切の章程は多く上海なる黃炎培蔣維喬先生等の提唱せる、佛教々理を以て世人を感化し、社會の道德を増進する法に依り、同志を糾合し、玄壇河沿の山陝會館を以て社用に充て、總務部念佛部編輯部講演部慈善部を分ち會長總理を設けず、品行端正なるもの皆社員なるを得べしといふ。已に警察廳の許可を経て、保護を受けることゝなれり。(三月十五日—福建日報)

臧軍浮宮に至る 十五日午後六時、臧致平は兵三團共計三千人を分ちて演武亭に至り、旅長

田德潤より統率し、反攻に備へ、十六日午前五時四十分迄に厦門湖里山白山の兩砲臺より對海なる嶼仔尾に向ひ、二十八センチ砲を放つこと十四回、兩砲臺命中せしが、相手方返り撃たず。同七時田乃も三隻の小蒸汽を派して渡らしめ、敵軍全くなきを見て汽船民船を用ひて兵を運び嶼仔尾に渡り、敵に向つて追撃し、已に浮宮に至る。

嵩嶼降らん 十六日正午、嵩嶼なる王献臣部蔡營には白旗を掲げ臧致平に投降せんとて、現に條件協議中なり。

方聲濤民軍の團結を勸む 方聲濤は十六日上海より厦門に至り、民軍に團結を勸めたり。

泉州守兵少し 漳州の王献臣部は僅に二百人のみなれば、臧軍は直ちに城中に入るを得ん。但し泉州厦門間の電報通信は皆不通となりたれば、泉州城は想ふに已に包圍に陥りしならんか。(以上三月十六日厦門電)

王永泉大勢去る 王永泉は十一日晚、泉州に至り、即時楊化昭部を泉州城に入れたるが、高義、張毅、王献臣の聯軍に進攻せられ、楊部の戦死せるもの團長一人、兵四百餘人あり。王永泉は四面に包圍せられ、軍心渙散せるを以て、大勢已に去れりと爲し、始めて閩省を離るゝことに決意せり。楊化昭は因りて委員を派し高義と打合せ、通電を發して孫傳芳に投降せり。孫傳芳は姚建屏を派して下游に赴き軍隊を收束せしめつゝあり。(三月十六日福州電)

齊燮元の異謀 江蘇省齊氏は委員を派して厦門に至り、臧致平、王永泉と要事を商議せしむ。聞く臧王及び全部の民軍は齊氏より協助し、聯合して孫周を拒がしむることゝしたりと。

海軍の中立 杜錫珪は閩省艦隊に發電し、周蔭人、王永泉の双方に對し中立を守らしめたり。

周は吳陳部を收編せんとす 周蔭人は仙游に到着せるが、吳威及び陳國輝部を收編せんと求めたり。但し吳陳共に未だ之を承認せずといふ。

楊部泉州を退出す 楊化昭部は泉州城を退出し、高義竝に張毅は其の跡に入り來れり。秩序紛亂せる爲、各界竝に省城に打電し、至急委員を派し來りて善後策を講せんことを請へり。

臧の布告 十六日臧致平は正式布告を發して云く、今日早朝我が軍嶼仔尾卓岐等の處に向つて攻撃を開始し敵勢支へず、八時卓岐を占領す。敵は漳州に向つて潰退し、現に正に追撃中に在り。計るに明日漳州を克復すべしと。

民軍は孫周に反對 王永泉は確に泉州より上海に赴けり。其の軍隊は楊化昭に渡して統率せしめ、臧致平の改編に歸せしめ、安海に在りて集中し、同安の張毅を攻めしむ。泉州は王献臣、高義より維持し、民軍は多く泉州に入れるが、皆孫周を拒まんとすといふ。

楊は臧部に編入 十六日晚、楊化昭は委員を派して臧致平に謁し、臧より王部を編制して閩軍第三師と爲し、楊化昭を師長と爲す。十七日、公文の關防及び軍糧を送りて安海に至り、日

を尅して同安を攻めしむ。

威軍前進せず 威軍は嶼仔尾を占めてより十七日に至るまであまり前進せず。十六日正午、討賊軍何成濬は其の部を率ゐて退却し、十七日正午廈門戒嚴せり。

王献臣部旗號を改む 王献臣部及び漳屬民軍共に千餘人は、忽ち討賊軍秦望山の旗を懸け居れり。(以上三月十七日—廈門電)

威の攻漳は有利 本月六日福州より驅逐されたる王永泉は、泉州に難を避け、同時に威致平と妥協成立し、王永泉は馬巷同安間に於て、頼世璜、王献臣等の北軍側と交戦開始、戦況有利なりとの情報に接したるを以て、昨十六日午前六時、廈門市南側の砲臺より、對岸の敵軍に對し砲撃を開始し、歩兵の輸送を試み、都合よく對岸に上陸、漳州攻略の途に上り、戦況は有利なるもの、如し。(三月十七日—廈門情報)

□廣東南北争戦後記彙電の三十一

陸の廣西督理 梧州通信には、韓彩鳳、劉日福等が通電を發し、陸榮廷を廣西督理の職に就かしめ、材俊廷に欽廉邊防督辦職に就かしむることを催促したりとあり。聞く陸榮廷は平樂縣城に在りて行署を設けたりといふ。

粵軍増加の現状 大本營の接手せる探報によるに、樟木頭の粵軍洪兆麟部に四五千人を増加し、正果の粵軍揭坤如の部に三千餘人を増加したるも、尙何等の動作に出でずとあり。

熊洪香港に在り 熊略洪兆麟は現に尙香港に在り。されば東江の大戦は猶後日の事なり。

(以上三月七日—香港電)

北軍南雄に入るを傳ふ 北軍は南雄に入り、前鋒は將に始興に至らんとす。高鳳桂は復た北方に投歸せしとの説あり。南雄に駐れる軍官連の家屬は二日前に皆逃れて韶關に返れりと傳ふ。(三月八日—香港電)

胡思舜部は粵軍と開戦 范石生より大本營に報告せるに云く、胡思舜部は七日巳に横瀝に在りて粵軍と開戦し、双方均しく死傷ありと。

匪徒石龍飛機廠を襲ふ 西路討賊軍胡旅より報告せる所によるに云く、七日晚十二時、匪徒二百餘ありて、石龍の飛行機廠を襲攻せるが、其の場に於て數名を斃し、十餘名を擒にしたりと。

孫氏毛代表を招宴す 張作霖氏代表毛鍾才は粵に來り孫文氏に謁したれば、孫氏定めて九日元帥府に在りて毛代表を招宴すべし。(以上三月九日—香港電)

孫氏共產と同調 孫文氏は九日黨人に勸め疑を解くのを發表せるが、書中に露國共產黨は

一舉にして成功したり。此れ即ち吾が黨の歡迎し引いて同調を爲す所の者なり等の語あり。陳光遠北伐軍長を辭す。陳光遠は電報を以て其の北伐軍第一師長を辭職したるが孫氏は之を許可せず。只休暇を與へ、高鳳桂を以て暫く此の職を攝せしむることを許せり。

(以上三月十日—香港電)

南雄の屢變 南雄なる滇軍は方本仁に投降して後、楊如軒より統率し、移りて庚嶺に駐る。高鳳桂の新兵隊が譁變するに値ひ、滇軍即ち庚嶺より進んで南雄を占む。現に方軍の大隊未だ至らざるに因り、復た庚嶺に退く。随ひて高部又移りて南雄城に駐れりといふ。

黃部沈軍を防ぐ 沈鴻英軍の一部は、東昌より連縣を経て賀縣に返り、將に梧州に向ひ進取せんとす。連日黃紹雄の部は梧州より兵を調し大砲を運び、撫河に赴いて増防し、黃紹雄も亦廣州より梧州に返れり。

粵軍來攻せんとす 石龍行營の電告に云く、博羅には敵軍一師團を増加したり。三日内には必ず我が軍に向ひ前進すべしと。

汕頭粵軍の動搖は不實 汕頭の粵軍總指揮部の布告には、林虎は威致平と合したる新聞あるも決して此の事なしとあり。又同時に劉光炎顧問の名義を取消したりとあり。

北江防地の委棄 韶州に駐れる趙成梁部の滇軍は前日退いて英德に駐れるが、其中千餘人

は已に省城に返りぬ。聞く北江の防地は全く棄てんとするなりといふ。

林虎の使命報告電 林虎は江寧より江頭に打電して云く、北京より江寧に返り、打合せ已に成り、本日内にも歸途に就かんとす。竝に十萬元を爲替として汕頭に送れり。

孫氏攻惠令を發す 孫氏は其の攻惠計畫令を十日午後十時に出せり。(以上三月十二日—香港電)

西江移駐に關する孫氏令 孫文氏は各機關に命じて云く、西江報告に據るに、陸榮廷蠢動の報あり。李濟琛に命じ、移りて梧州に駐らしめ、竝に許軍總司令部に命じ、移りて肇慶に駐らしむ。

三井の酒稅公司監收 三井洋行は廣東政府が同行より前に十六萬元の借款を爲し居るに拘らず、其の抵當物件たる酒稅を催促するも還さざるより、十二日行員小田を派遣し、酒稅公司に赴き其の收入を監督し、同借款支拂濟に至るまでを期限とす。

湘軍觀音山に駐る 連日湘軍は調せられて觀音山に駐り、其の數已に千餘人あり。湘軍の北江より來るもの甚だ多く、十二日の夜は夜行列車を通じ、省城へ兵を運ぶこと數回に及べり。

楊希閔の船艇保安捐 楊希閔は衛戍司令の名義を以て布告し、船艇は必ず保安證を受くべく、其の等級は甲乙丙三等とし、之に對する保護費を納めしむることとなせり。甲等は月三元、乙等は二元、丙等は一元なり。

梁卓鄭等の許軍反對 梁鴻楷、卓仁機、鄭潤齡等は江門に會議を開き、許崇智部が四邑に來りて地盤を争ふに反對すべきを決議し、即日署名せる電報を孫文氏へ發し、許軍の移防を制止せんことを請へり。

楊虎北伐師長に新任 孫文氏令を以て楊虎を北伐軍第一師長に任じたり。

(以上三月十三日香港電)

粵籍將領の對客軍 許崇智十七日廣東に到着せるが、此れ聯軍粵籍將領の請に應じ、廣東に歸り粵籍部隊を江西に團結し、以て客軍に相對することを相談するが爲なりといふ。

韓彩鳳全州に赴く 陸榮廷は韓彩鳳を電召して全州に赴かしむ。韓氏即日衛隊數百を率ゐて前進せり。(梧州消息)

南寧各團の勸陸 南寧各團體は通電を發し、陸榮廷に請ふに其の督辦職に就かんことを以てし、林俊廷には欽廉邊防督辦職に就くことを以てしたり。

蔣光亮洛陽と打合せ 蔣光亮は旅長楊育合を派して洛陽に赴き打合せを爲す爲、六日香港より四川行汽船に乗じて上海に赴き、洛陽に轉せんとす。別に李根源の書を携帶し李根源と打合せする筈なり。(以上三月十七日香港電)

孫文令 十七日孫氏は令を下し、鄧澤如を禁烟督辦に任じたり。

楊の辭職を許さんどす 楊希閔は聯軍前敵總指揮を辭したるが、孫氏は將に之を開濟まんとすといふ。

孫氏の軍議召集 孫文氏は十七日軍官を召集して軍事會議を開きて協議し。(一)陳、柏、胡の三北伐軍長に令し積極的に北伐進行せしむ。(二)湘滇閩粵四省の招撫機關を組織し、劉毅を以て總指揮に任じ、機關を廣州に設く。(三)北伐軍費は聲望あるの華僑四人に委託し、南洋路商埠に赴き勸募せしむ。(四)李福林をして南路を肅清せしめ、即時東江に加入せしむ。(五)軍艦數隻を出し威致平を助け汕頭を取らしむ。(六)公使團に勸告し、軍火を北方に與へざらしむ。以上六案を決定したり。(以上三月十八日香港電)

### □ 刻用煙草の栽培法

福建省の上杭、永定兩縣產の刻煙草は全國馳名の農産物なり、是れ其の郷土の煙草栽培に適せるものなりと雖も、實際は栽培法の佳良なるが故なり。民國九年余は福州農業學校を卒業後歸郷せるも何等仕事無かりし爲め、即ち煙草の栽培法に就き實地試験を行ふ事となし、同九年冬より下種を行ひ十年夏に至る迄で、約半箇年の間研究せしが、余の今日迄で見たる書籍の大半は實地に適せざりき、是れ如何なる理由ぞ。大凡如何なる科學にても實驗に重きを置くべき

にして、専ら學理にのみ便るべきものにあらず。學校の教科書は唯學理的の研究にして、實驗的調査なきを以て、一度試験を行ふも紙上の空談的弊害あるを免れず。民國六年余は初めて福州農業試驗場に至りし時、頗る多數煙草の栽培せられつゝあるを觀たり、土地は肥沃に且つ管理も頗る周到なるものなりしが、收穫の結果は甚だ不成績なり、之れが原因は則ち栽培上に於ける方法の宜しからざりしに外ならざるべく、斯く勞して功無き現象を來せるなり。以後試験を行ふ毎に逐次改良せる結果、年一年と良好となりしは則ち學科より實驗に重きを置きし證據たり。然れども余の主張は學理を放棄するの意にあらずして、學理と實驗とを相互に參考となし、一方に偏重せざるを意味するものにして、學校の教科書は全然不必要なりと説くものにあらずるを以て、大家に於ても誤解無きを請ふ。譬へば此煙草の栽培法の如きも、些少は適せざるものありと雖も、教科書上に記載ある幾種かの除蟲藥液の如きは頗る效用あり。剝用煙草は成長期間頗る長きに因り、常に一種の病菌及害蟲發生して煙草畑に蔓延し、葉質を剝蝕し煙草葉の收穫に大損を與ふる事あり。然れども郷間の老農は全部其驅除法を知らざりしが、余は石油乳劑とボルト液とを製造し、簡單なる噴霧器を用ひて、之れを幾回となく噴射して、無數の菌蟲を悉く死滅せしも、煙草の本身は何等影響を受けざりき、這は余の農學校に於て研究せる效果に外ならず。尙施肥の順序と乾燥法とは余の實驗せる結果を述べて大家の參考に供せんとす。

然れども地方によりては效果疑問のものあるべきを以て、又讀者諸君の教を請ふものなり。

一、苗床

苗床は沙質壤土にして、排水の容易なる畑地を選び、高さ一尺、巾二尺半、長さ無限の畦を作り、畦面の土塊は極力細末に鋤き、(細末なる程佳良なる結果を收む)然る後木板にて平にし、畦面に播種する準備をなす。

二、播種

播種の時期は多く冬至前後にして、播種前一日間種籽を淡灰水中に浸して發芽を容易ならしめ、且つ病害の豫防となす、而して浸水に二十四時間を経過したる時は種籽を細砂に混和し、砂を混和せざれば發芽せる苗秧密生する恐れあるが故なり、撒播法に依りて播下し、再び木板を用ひて軽く之れを壓し、更に藁を以て之れを覆ひ、以後は毎日一二回灌水す、然る時は約一週間にして漸次發芽す。

三、霜除

發芽せる苗の一寸程に成長せる時藁を除去し、改めて竹箒を用て高さ一尺以上の霜除(俗に霜蓬と稱す)を作る、霜除の長さ巾とは畦面と一樣になし、日中は之れを開きて苗に充分日光を與へ、夜間は上を蓋ひて霜雪を防ぐ、二週間も経過しなば稀薄なる人尿(尿十分水九分の



比)を少量施す。

四、床替

發芽後一箇月以上経過したる時は、別に畑を耕作して床替に備へざるべからず。床替の床は播種床と一様なれども、只耕耘の時に人畜糞尿或は堆肥を土中に加へ、苗の生長を促進せしめざるべからず、整理已に終れば粗大なる苗を選抜して、新に耕耘せる床中に移栽す、毎株の距離は二三寸となし、灌漑に注意し培養に勤め完全なる發育を遂げしむ。尙播種床に餘れる苗にして稍や大となりたる時は再び掘取りて移植す、此方法は俗に養秩と稱すれども、科學上よりは床替と稱す、而して床替後は又霜除を作りて其被害を免れしむるを要す。

五、整地

立春前後に煙草栽培の畑地を整地すべし、(凡そ砂質壤土、粘土及腐植土なれば全部好し、但し排水は容易なるを要し、土塊は極く細末となすべし。而して畦は高さ一尺、巾三尺半、長さは無限なり、各畦間は巾二尺の溝を作り以て排水及歩行の用に便にし、別に畦面に小鋤を用ひて深さ八寸徑一尺の穴を掘り、各穴間の距離を三尺となす、但し其配置方法は三角形或は正方形の兩種あれども、人の意思に隨ひて安梅さる。而して三角形移植法は比較的管理上便利にして、日光の透射も亦容易なり。

六、定植

煙草栽培の畑地を整理し、清楚になりたる時は床替の煙草苗を掘起し、(苗根を損傷せしめざる様に根上の泥土を粘著せしむるに意を用ふべし)畑中の穴に植付け、根部は泥土を以て軽く壓し、且つ少量の堆肥或は油粕を穴中に加へ一面に藁を以て周圍の隙地を蓋ひ、然る後灌水して定植の手續をなすべし。但し此定植には無風の陰氣なる日或は降雨のありたる後は植付に容易なる日を選ぶを最も適當とす、而して定植後天氣の爲め乾燥せんとする時は灌水に注意し、乾枯を免れしむべし。

七、補植

定植の五六日後は毎日畦を巡視し、萎縮の煙草苗を見出したる時は直ちに抜き取り、別に好き苗を掘りて補植す、補植以後も尙隨時檢視を行ふべし。

八、肥料

煙草栽培上の主要肥料に三種ありとせば、人畜糞尿、油粕及硝鹽(即ち硝石末と食鹽と相似たるより此名あり)ならん。此三種の肥料は煙草の組織に對して各效用ありて、其一を缺くとも成長困難なり。這是刻用煙草の主要目的は色、香、氣、味及質の五種に外ならざるに因る。糞尿は煙草の質を柔潤になし、油粕は煙草の味を純利にし且つ色澤を増し、硝鹽は更らに煙草

の氣を雄健にし且つ一種の芳香氣味を生せしむるを以て、五種の目的は既に備はる、故に此法に隨へる刻用煙草は品質一定して人の歡迎を受くべし、然れども萬一其一を缺くとも此歡迎を受くるを得んや。即ち煙草の生長を促進し、發育を完全にし、收穫量を増加せしめんと欲しなば此三種の肥料は缺くべからざるものにして、稍や農業に關する知識と經驗とを有する者は大概此道を知り、余の説を用ひざるは無し。

九、施 肥

肥料既に備りなば施肥の順序なれども、施肥には時期の斟酌を要し、隨時亂用するを得ず。定植後三週間經過し始めて稀薄なる人畜糞尿を一回施し、(糞尿二十分、水八十分の比)煙草苗の高く穴面に出でたる時濃厚なる糞尿一回施し、(糞尿五十分、水分五十分の比)再び約三週間經過せる時更らに油粕の粉末を一回施す、而して一株には約一兩五錢を要す。以後は摘葉三回毎に硝鹽と人糞尿とを一回施し、(硝鹽五分、糞尿四十五分、水五十分の比)摘葉二回以後は即ち施肥を行はず。

十、摘 心

煙草の生長して三四尺の高さに達せる時、手指を用ひて頂端の芽包を開き、包内の心芽を摘去す、此方法は俗に節頂と稱し、即ち再び生長せしめざる意思なり。摘心の時は最も注意を要

するものにして、外層の嫩葉及び莖節上に在る葉柄旁邊の假芽を損傷せしむべからず。又煙草の枝は節より交互に生ずるものなれば節には必ず一葉を留むべし、而して一株には葉二十五枚内外を留むべきにして、過多なるは不可なり、即否らざれば生長不良となり、管理上不便甚だし。

十一、摘 葉

摘心の幾んど一週間前より漸次摘葉を行ふべし、其方法は手指を以て葉柄の著き居る處より摘取するものにして、五六日に一回摘葉を行ひ、其一回に一株より二葉を取るものなれども、根に近き部分より取り漸次上部に及ぶを要す、手摘五六回の後は一株に只十枚を除し、手摘せず改めて刀を用ひて割り、頂上より下部に及び、莖を横に截斷す、而して葉には葉柄の長さ一寸内外に切り、附著せる葉柄は毎回二枚に割り、五六日に一回行ひ、芒種節前後に到り此割切を完了す。(手摘刀割に論無く、早晨成は夕方に之を行ひ、決して日中に行ふべからず)。

十二、夾煙(煙草葉筴)

煙草葉を乾燥するには多く小竹片製の短形竹床を用ふ、其長さは約五尺巾約二尺にして、全面には多數の小方形の穴あり、而して其穴の四邊は縦横共に二寸にして、此竹床を平にして木の腰掛臺上に置き、摘取り或は切取りたる煙草葉を其竹床上に薄く並べ上下を相重ね以て魚鱗の如くなす。(各煙草葉の面は同一方向なるを要す)全部敷き終りしなば更らに竹床を以て覆ひ、



別に長さ二尺の多數の小竹を床の兩端及中部の孔内に反覆横挿し、挿入用の小竹は五本なり、兩床をして緊く煙草葉に密著せしめ其脱落を免れしむ、此方法は俗に夾煙と稱し、此一床の煙草葉を一夾と云ふ。

十三、晒煙(煙草葉の日乾)

煙草の葉を筭みたる後は平地或は緩斜地に搬出して乾燥せしむ、其乾燥方法には二種あり、一は筭みたる竹床を互に立掛け、他は只地に散布するものなり。而して日中は干し夜間は屋内に取入れ、晴天の日は干し雨天の日は又取入るものにして、先づ葉面を乾燥し然る後葉底を乾燥せしむ、而して黄色に變じたる時家内に搬入し、小竹竿を抽出し以て竹床を打開き、其煙草葉を疊みて筐中に收む、此方法は俗に折煙と稱し、此方法は順次に行ふものとす。

十四、重晒(再乾燥)

一回の乾燥終れる煙草葉は黄色に變化せりと雖も、葉脈、葉柄及莖は未だ乾燥不充分なり、故に第一回の乾燥方法に従ひて再び竹床を作り、十乃至二十床の葉を一床となして重ねて乾燥す、(十餘床の葉を合して一床となすは則ち乾燥の爲めの搬出及搬入に費す時間を省略し得るのみならず、又先に用ひたる竹床は其他の煙草葉の乾燥に使用する事を得而して葉脈、葉柄及莖の十分に乾燥せる時床を破りて貯ふ。

十五、收藏(貯藏)

貯藏方法は長大なる木板を木製腰掛臺上に置き、十分乾燥せる煙草葉を十數枚疊みて一塊となし、之れを板上に平行に敷き、漸次高く重ね、其上に更らに木板を敷きて之れを壓し、別に棉を以て之れを被ひ、發賣の時を待つ。

十六、留種(種の保留)

未だ摘心せざる以前に生長の完全なる煙草の數株を選び、摘心及摘葉共に行はずして、其生長するまゝに放任しなば、夏末或は秋初めに至り花を開き實を結ぶべし、而して一株より果實數千箇を得べく、一果實には種子數百粒を含有す、此果實の乾燥して褐色に變じたる時摘取して打破り、二三日其種子を乾燥して瓶中に收め、以て冬季の播種時に備ふ。

十七、病蟲害の驅除と驅蟲藥の製法

煙草葉の害蟲には三種あり、一種は病菌にして其體の小なる事蝨の如く、色は青或は紅にして葉底に付著す、其繁殖頗る速にして且つ傳染も亦甚だ早く、煙草葉の被害可なり大なり、又赤星病の發生する時は黒褐色に變じて腐爛す、此場合はホルト液を二回噴射すれば即ち絶滅する事を得。一種に又煙蝨と稱するものあり、體長く、色青く、蝨の模様に似たるを以て之れを煙蝨と稱す、而して此蝨は専ら葉質を嚙食するを以て煙草の葉は其害を受け全面に孔を

生ず、此蟲は石油乳劑を噴射すれば忽ち絶滅す。此外尙地蚕と稱する一種あり、其の形狀大小は煙蚕と殆んど同様なれども、色は黒色なるを以て日中は土中に潜伏す、故に人呼びて之れを地蚕となす。而して夜間土中より出で、煙草の葉を食ひ、其被害は煙蚕に比し更らに大なれども、黎明以前に又地中に入るを以て其踪影を認むる事は頗る困難なり。而して之れを絶滅するには又石油乳劑を使用するものにして、煙草の根旁及莖上に注射すれば、地蚕は夜間土中より出づる時藥液に觸れて死亡するなり、然れども此藥液の噴射は宜しく夜間に行ふべきにして、日中及早晨に行ふべきにあらず、尙噴射後十時間以内は降雨のある時は此藥液は雨中に液解し、其效力を失ふを以て、降雨のありたる時は更らに一回噴射するを要す。而して石油乳劑の最も有效なる時期は害蟲發生の最も盛なる時にして、藥料は比較的少量にても容易に驅除するを得べし。尙二種の除蟲藥液の簡單なる製法を記述すれば左の如し。

(イ) 石油乳劑

原料 石油(火油)一升、石鹼(普通の洗濯石鹼)一兩二錢乃至二兩、水五合

製法 先づ石鹼を薄片に削り水を混じて煮沸し、十分溶解せる時、別に瓦器を使用して石油を低温に暖め、石油の最高温度は七十度を過ぐすべからず、又銅鐵器を使用すべからず、否らざれば爆發の恐れありて頗る危険なり、兩種原液の同温度になりたる時、一器内に流入

し、極力攪拌して相互を和合せしめ、而して放冷すれば白色乳狀となる、故に之れを石油乳劑と稱す。使用の時は十倍乃至二十倍の温水に溶解して攪拌し乍ら噴射す。

(ロ) ポルト液

原料 硫酸銅(膽礬)十三兩、生石灰十兩、水一斗

製法 先づ生石灰を器中に盛りて一碗の冷水を注ぎ、石灰を微細なる粉末化せしめ、再び二升の冷水を器中に傾入して極力攪拌し、石灰の乳化を容易ならしめ、更らに布を用ひて濾過し其夾雜物及塵埃を除去す、他方には硫酸銅を温水中に溶解して放冷せしめ、石灰乳を其の硫酸銅液中に流入して又攪拌しポルト液となす。ポルト液の石灰含量は植物と甚だしき關係を有するものにして、若し石灰の不足せる場合は殺蟲の效ありと雖も、又植物をも害するを以て、製造の時には先づ豫備試験を行ふべきなり。試験の方法は甚だ多きも、最も簡單なるは即ち磨きたる小刀を液中に浸入し、暫時にして之れを抽出し、刀面に銅色現れざれば、二液の配合の良好なるを證明せるものなれども、若し刀面に銅貨の附著ある時は石灰の不足を意味するものなるを以て更らに石灰乳を加へ、再び小刀を挿入して試験すべきなり、而して此試験にて小刀に銅色を現さざるに至り初めて止む。(農商公報百十一號)

比律賓

比島に於ける飛蝗驅除用飛行機購入

本日聞知せる處に據れば、比島當局は飛蝗驅除戦に使用する爲め「カーチス」式飛行機一臺購入の件を協賛せし由なるを以て、現時數縣下の甘蔗園を荒廢に歸せしめ、つある蝗群に對して、農務局は近く大々的空中戦を開始するであらう。尙ほ其節は陸軍飛行機も之に協力する由である。

JN4D機一臺購入の件は、緊急評議員會最終の會合に於て協賛を経たもので、商務交通省長官は、比島購買所へ速時該機の購入方を通牒したらしい。

農務局對合衆國陸軍航空部との打合せに據れば、ミンドロに於て四機乃至五機位を收容し得る格納庫が建設されたら、陸軍側から偵察用飛行機を供給する事となるであらう。

該機は中古で價格一千比、尙ほマグネット修理費二百比も該緊急評議員會で承認されてゐる。今朝農務省當局の談に據れば、今次の飛行驅除戦はミンドロにあるが如き廣大なる甘蔗園に於て大々的に開始せらるべく、彼の砒素石灰粉の撒布をも行ふであらうと。

(マニラ・タイムス三月五日)

比島ナショナル銀行製糖所の産糖狀況

The Philippine Sugar Central Agency 所長デイ・エム・セムブル氏の談に依れば、比島ナショナル銀行の經營する六製糖所は、今日迄に七萬九千四百六十三噸、價額二千三百萬比の砂糖を製出し、而も先週中に、該六製糖所を通じて五、二五二噸の産糖を見た由である。

尙ほセムブル氏の談に依れば、工場の擴張せられたイサベラ工場は、二月十八日に製糖に著手し、産糖能力は一千噸に増大せられ、目下能率一杯に繰業してをり、タリサイ工場の生産高も亦今週は最大限に到達すべしと豫想されてゐる。パコロッド、バムパンの二工場は別として、其他の製糖所は凡て今日迄に、昨年度の全製糖期中よりも遙かに多量の砂糖を製出したとの事である。因に、今後尙ほ六週間乃至二箇月分の製糖量が残在してゐる。

本年度は糖産額を増大せしめんが爲めに、輸送方法及び工場設備に各種の改良が考案された。昨年度の産糖額は約八萬五千噸であつた。

バムパン工場は本年度は當外れとの事で、即ち一年前に於ては該工場の製糖高は二萬噸と豫測せられ、後十二月に入り該豫想は一萬六千噸に減少し、昨今に於ては結局一萬二千噸止りならんと云はれてゐる。(マニラ・タイムス三月十二日)

佛領印  
度支那

植替

□交趾支那フーチュク島に於ける椰子栽培 (下)

植替は樹幹の長さ一・二〇米突、乃至一・五〇米突に達せる時、即ち一年後に於て行ふのであるが、苗木を植込む穴は間口〇・五〇乃至〇・六〇米突を有し、粘土層まで達するまで堀下げ、其深さ〇・三〇米突より浅きは良くない。苗木は根元まで、又は果實の半ばまで土中に埋むるのであるが、往々根元を腐蝕せしむる危険が尠くないので、寧ろ果實の下半のみを埋むる方上策とされてゐる。苗の植込を了りたる時注意すべきは、苗の周囲の土壤を固め均らす時之れを固めぬ事である。周囲の土地を凹ます時は雨毎に水を漑へ、之れが爲め苗木の發育上面白からざる結果を誘致することが多いと云ふ。

栽培上の注意

毎年二回除草を行ふ時は爰に土壤を保護し得べく、年々之れを行ふ方有效にして且つ又同時に尠くも最初の三年間は溝の泥土を汲揚げて、鋤返したる土壤に施すを良策とする。椰子樹が枯死するに至る迄に行ふ土人の手當は此二方法あるのみである。尙ほ賢明なる方法としては最初椰子の苗木を植付くる際、之れに芭蕉を混植するにあるが、普通此際混植するものは「チ

ユオイラ」種にして、其實より生ずる収益は優に椰子園の最初二三年の維持費を償ひて餘りあるものがある。加之芭蕉の幹又は葉が伐採委棄されたものは立派な肥料となる。去り乍ら椰子の樹齡五年に達せる時は芭蕉を抜き去る必要がある。且つ又叢林又は藪は野鼠或は昆蟲類の庇所となるを以つて、椰子園の附近に存在する斯る種類のものは必ず除去せぬはならぬ、然らざる時は椰子樹に多大の損害を與ふるに至るものである。

果實摘採

早熟のものは五年目又は六年目に於て結實し始むと雖、普通八年目にして始めて正規の收穫を見る。果實は「コブラ」原料に供するにしても、果は又種子用とするにしても、完全に成熟せざる内は摘採を避けねばならぬ。未熟中の摘採は直ちに消費する場合、即ち椰子漿を採取する場合に限る。熟果は一種の蔎色即ち松葉色を呈し、極めて特色ある班白を交ゆ、果皮は乾固平滑、繊維は殆ど乾燥し、果中水分の鼓動するを聞くことが出来る。

果實摘採には土人は如何なる方法に據るか云ふに、細長き竹の先端に鎌を結び付け、之れを果軸に懸けて引切るのである。熟練せる採手は日に五百乃至八百個、中には千個を優に摘採し得る者もあると云ふ。摘採の場合地上に墜下せる果類は、之れを保護する繊維質の反撥力に依り毀損することはない。斯くて摘採せるものを集めて之れを番小屋附近に推積せしめて置く

第百二號

採集時期は三期に分ち得可く、第一期は一月乃至三月の間にして收穫中位、第二期は三月より七月乃至八月に至る間にして、此期間の採果は顆數多く且つ果實は大きい、第三期は七月、八月より一月に至る時期にして、果實も少く且つ減收を見るのである。採果は一箇月或は四十日又は二箇月に亘りて行はれるのである。

椰子賣買の節は一「グワン」を一單位として之れを標準とするのであるが、「グワン」とは「チュック」、十二箇の百倍即ち千二百箇を云ふのである。小顆は一「グワン」に就き三、四十弗、中顆は四、五十弗の相場を普通とするが、稀れには七十弗に達するものもあれ共、之れは極めて例外の場合にして、勿論此場合は極最上品である。

收。穫。

收穫の多寡は椰子園の植込密度、仕立方、土壤の肥瘠、溝に流入する粘泥の多少等に因り、週期的海潮の氣ある村落に於ける收穫は概して良好である。即ち該村落の河水は一、二月乃至、三、四月の初三箇月間に限り鹽分を有し、其餘の月に於てはメコン河増水して盛に粘泥を流入する。椰子着果數は區々一定せざるも、優良樹にありては平均一本一年大果五、六十箇にして、小顆なれば百箇を數ふる場合もある。劣等樹にありては一本の年産二十箇に過ぎず、シヨイフ

第百二號

ン、タンチンより海岸寄りのものは僅々十箇を數ふに過ぎぬ。西部は果顆大なれ共三、四十箇に過ぎず、キンヂーン溝に沿ふフーチュック、ホラカーンに於ては一本の年産二十箇に下る。これを要するに異常なる氣象的天災なければ全島を通じて平均一本の年産四十箇強を普通とする。

椰子栽培は有利なる事業たるに相違なけれ共、苦痛とする所は廣潤なる土地を徒らに五、六年間放置せねばならぬ點にして、富裕なる地主にして始めて椰子園を經營し得るのである。隨て、若し收利の早きを望む者は寧ろ米田經營を上策とするのである。メコン河沿岸にして灌溉の設備ある土地に於ける收穫優良なる椰子園一佛町當り價格六百弗乃至八百弗であると云ふ。鼠害其他

叢林、竹藪其他樹林ある處には多數の野鼠或は栗鼠が棲息してゐる。加之食果蝙蝠頗る饒多なるを以て、斯る附近に設けられたる椰子園の災害は僅少ではない。尙ほ又「オリークト」蟲(土語にて「キエン・ジョン」と云ふ)は俗に犀蟲と稱せられ、手入れを怠りたる土壤を甚しく荒廢せしむる害蟲なれ共、奥行深く蜜接して植込みたる椰子は樹葉繁茂し、此蟲の飛翔を妨害するを以つて其蟲害を受くる心配はない。コブラ製造

コブラの原料に供すべき果類は必ず全く成熟せるものに限り、未熟のものを摘採せる場合には一箇月乃至二箇月半推積せしめたるまゝ放置し、其成熟を待つのである。

繊維部除去  
コブラ製造に際し第一爲す可きは繊維部の除去である。太き棒の一端に短き一種の槍の穂先き様のもの(之れを土語にて「ケ・ナン」と云ふ)を取附け、石突に當る部分を土中に深く動かぬ様に挿入する。次で穂先に果類の繊維部を嵌入して果實を振動せしむる時は、外殻と繊維部とを分離せしめる。概して此作業は二三回反復すれば充分である。熟練者ならずも一日八百乃至千箇を脱糵し得べく、熟練者にありては千二百箇に達することが出来る。而して此脱糵費は百箇に對して十五、六「サンチム」の割合にて受負ふのである。

コブラ製造

纖維を取去れる果實は「マツカイ」と稱する一種の鉈を以て打割り、多くは顆中の漿液をしたみ去るを常とすれ共、時には之れを集めて煮沸せしめるのである。斯くする時は約一「パーセント」の稀薄なる糖分を得べく、土人は之れを調味劑として使用する。顆の開劈及び其附屬勞作の庸人の手間は千二百箇に就て五、六「サンチム」の割合である。而して鶏卵大のものは不合格品として庸人の所得となるの利益がある。開劈せる果類は併列して肉果を太陽に暴露せ

英領印度

英領印度製糖業の現状と其海外貿易 (上)

しむ。暫時にして其白色表面は乾固して薄膜を構成するを以つて「コブラ」保存上都合が良い。此際の暴日時間は六乃至十二時間とする。次に鉈を用ひて果肉を殻より分離せしむる。此仕事は容易にして一時間に百箇は開くことが出来る。果肉の乾固は充分に日光に暴して之れを遂行するのであるが、乾燥期にあつては三日間にして作業を終了することが出来る。雨期に於ける乾燥法は地上約〇五〇米突の高さに簀子を設け、其上に肉果を列べ、其下に於て焚火を爲す。此際曩に得たる纖維皮を其燃料として利用する。斯る方法に依る乾燥時間は二十四時間とす。普通太陽に暴露せる椰子顆千二百箇は三百六十基のコブラを採取し得べく、火氣乾燥のものは更に完全にしてコブラの重量僅に十基に減少するに至る。コブラの乾燥如何は其形相に依り認知し得るのみならず、良く乾固せるものは一本の寸を以て容易に火焔を擧げ、暴音等を發せず又毫も硬縮せず、隙目あれば依然白色を呈せるまゝ燃焼するものである。

コブラの時價は産地渡一擔當九弗乃至十五弗で、輸出物は西貢渡十六、七弗見當である。(註)

印度製糖業者は何れも數年來斯業の發展を計り、りしが、未だ渺々しき進歩の跡を見るに至らずと雖も、今後一層努力し種々改良を加ふるに、ては、將來大に發達の見込ありとて目下農

務省は斯業の改善を計りつゝあり。元來英領印度は世界有数の甘蔗産出國なるにも拘らず、自國の需要を充すに至らず、其大量を諸外國より輸入し居るの現状なり。之全く原料の豊富なるにも不拘、生産機關の發達之に伴はざるが爲にして、新式製造法を以て斯業の改革を計らんか、外國砂糖の輸入を防止し、よく世界の競争場裡に活躍するを得べし。歐洲大戰後中、歐諸國に於る甜菜糖製造業は何れも沈滞萎靡して振はず、未だ斯業の回復を見るに至らざるを以て、目下印度に於ける製糖業の發展を期する好時機なりとす。

◎印度に於ける砂糖産額 元來印度には甘蔗以外に甜菜の産出も亦相當あり、甜菜栽培地域は一九二〇—二一年度には二百五十六萬六千噸なりしが、一九二一—二二年度には二百三十八萬一千噸に減せるも、粗製糖の産出額は二百五十二萬二千噸より二百五十九萬一千噸に増加せり。即ち一噸に就ての粗製糖生産高は前年度の二、千二百二封度及最近十箇年間平均の二千三百二十七封度に比し二千四百三十九封度を産出するに至れり。尙一九二一—二二年度に於て大小二十九個の新式工場より精製糖七萬三千十三噸を生産せるが、之前年度に比し六千噸の増收あり、又従來の舊式製造法に依る精製糖産額の約五萬噸とを加ふれば精製糖全産額は十二萬三千二百十三噸に上るも、自國の需要に充分ならず。同年度は更に外國産精製糖の輸入多額に上り、戦前よりも遙に輸入増加をなせり。即ち戦前の輸入平均六十三萬四千噸此價格一億二千五百萬留

比なり。又一九二二—二四年度印度甘蔗收穫第一回豫想は其作付面積二百七十一萬五千噸なり。之昨年度の二百三十九萬二千噸に比し一割三分の増加を示せり。而して約二百五十萬噸の地域は印度が過去數年間甘蔗栽培地として擴張せんと計り居りしものにて、其の面積は左の三地方の約七割五分に當る。即ち合併州の五割、パンヂャブ州の一割五分、ビハル及オリッサの一割之なり。

◎印度産甘蔗の品質改良 印度製糖業の發展を期する第一要素とも見るべきは印度甘蔗の品質及製糖法の改良なりとす。印度北方に産する甘蔗は九分乃至一割一分の蔗糖分を含有し居れるが、ジャバ甘蔗及他國産のものは何れも一割二分乃至一割三分以上の蔗糖を含有す。又甘蔗の生産高もジャバ島に於ては一噸に付約四十噸なるが、印度に於ては最良好地たる合併州に於てすら平均約其半額二十噸の産出あるに過ぎず。特にパンヂャブ以外の北部地方にありては平均十五噸を生ず。茲に於てか最近印度農務省は印度甘蔗の品質改良及製糖業の發展等に努力するに至れり。而して其研究調査する所に依れば、諸外國一九一八—一九一九年に終る最近五箇年間の砂糖生産高はハワイ一噸に付四六噸、ジャバ四一二噸、キューバ一九六噸なりしが、印度に於ては僅か一〇七噸の最小額に過ぎず。由是觀之印度斯業の最も改良を要すべき點は甘蔗の品質改良に在り。之に關し種々の實地研究行はるゝ所ありしが、最近農務省技師は合併州に於て

試験的に百二十有餘種の甘蔗を諸外國より移植し、土壤を深く耕作し充分なる肥料を施し、水の供給を潤澤ならめたるに、何れも其の成長良好なりしを以て、一九一四より一九一九年迄に其中九種の甘蔗を撰擇し栽培せしに、一噓に付平均三〇八噸即ち八百三十八マウンドの收穫を得たり。而して其甘蔗の含有する蔗糖は平均一分一厘にして、即ち一噓に付砂糖三四噸を生産し得る割合なるが故に、目下同種の甘蔗栽培を奨励し居れり。

◎甘蔗栽培法の改善 印度甘蔗栽培の發展を期する爲印度砂糖業組合委員は種々の調査をなせるが、合併州に於ける現在の運河は不便尠らず、又灌漑の便良からざるを以て、之が改良を要すとなし種々考究中なり。而して植付に際しては水の供給を充分ならしめ、良種を選みて規則的排列法を行ひ、土壤は成可く深く耕作し、肥料として油糟等を使用せんことを奨励しつゝあり。又土地耕作には大農法に依る蒸氣耕作器及モータートラクタ等の使用を推奨し居れり。尙同委員は印度に於る甘蔗製砂糖は其殆んど大部分九割九分迄は粗製糖にして、其の一分を精製糖となし居れり。而して印度舊式製法にては粗製糖の製造中に甘蔗に含有せらるゝ蔗糖の三割四分は漏出せらるゝを以て、最新式製造法に依る生産額に比すれば全印度に於ける其損失額は實に莫大の額に上れり。そは説明を要する迄もなく、地方農家に於ける小規模の舊式製法を改造するの急務なるを示すものなり。

委員は此損失多き舊式製法を廢し、新式製法及其他發達の方法等を研究し、將來斯業に従事せしむる目的を以て製糖専門教育所を設立するの必要ありとし、其實現に努力し居れるが、右は印度に於ける斯業關係者の子弟を網羅し甘蔗栽培の方法、經濟的甘蔗壓搾法、製糖法等を教授せんとするものなり。而して又同委員は一方に於て地方同業組合にて新式機械を購入すべき事を推奨し居れり。

◎製糖工場及原料供給の不足 新式製糖法を採用するに當り、第一の困難たるべきは各工場に充分なる甘蔗の供給を爲し得ざるべき事なり。現在の如き購入法にては將來益々其供給不足を告ぐるに至るべし。茲に於てか即ち「セントラリゼーション」制度を行はざる可らず。セントラリゼーション」とは即ち急速に甘蔗の運搬をなし得る目的を以て甘蔗栽培地方内に其の地方産出甘蔗を消化し得る製糖工場を設くべき事なり。而して工場附近より豊富なる甘蔗の供給を得んには、努力と経費とを惜むべからず。全力を盡して耕作し、就中刈入れたる甘蔗は遲滞なく之を工場内に運搬する設備を設くべき要あり。斯る施設は新式製糖法を採用して初めて行はるべきものにして、若し「セントラリゼーション」の組織を得、新製造法を採用し、更に化學的研究をなすに於ては容易に斯業の發達を期待し得べしと。

従來印度に於ける製糖工場は何れも前述の如く舊式製法によりし爲甘蔗が含有する平均約三



割の蔗糖を損失し居りたるを以て、全印度生産に於て一萬五千三百四噸の蔗糖損失に當る。尙又地方小工場に於ける彼の舊式製法による白砂糖(精製種)は糖汁を空蓋釜にて蒸發作用により製造し居るを以て、多額の經費を浪費するのみならず、汁液及結晶體の大量を損失し居る次第なり。

◎印度に於ける砂糖原料の種類 印度には甘蔗以外に砂糖の製造に用ふる三種の原料あり。Palmyra Palmtree (樹頭棧)、Indian Date tree (棗椰子)、Beet Sugar plant (甜菜)の三種なり。從來印度に於ける粗製糖の多くはPalmyra Palmtree及びIndian Date treeの二種より採り來れるものなるが、此等兩種は印度各地に多く、地方にては此等兩種の汁液を採りタリー(俗稱棕櫚汁)製造に用ひ居れり。然るにPalmyra粗製糖製造の二大主要地たる南部マドラスは採汁職人の不足に悩み、又其一たる北部緬甸は燃料の不足を告げ居れり。而して委員は汁液及燃料運搬の困難を指摘し、此永年に互る傳統的舊式製法は地方民に先入主となり、新式法に依る製造工場「セントラリゼーション」組織を妨げ來れり。されど目下此種事業は研究中に屬するを以て、近く何等か良法を講ずるに至るべし。又東ベンゴールは棗椰子糖の主要産地なれど、同地方は燃料の供給も充分なる上土地豊饒なるを以て、原料の豊富と相俟て製糖業の發達すべき見込充分なりと。目下ベンゴール農務局は此方面に力を注ぎ尙研究中なるが、甜菜は専ら西北邊境州地

方バンデヤブ州に其栽培を奨励し居れり。

◎甘蔗糖の各國産額比較 甘蔗糖の本場とも云ふべき中歐諸國は、何れも大戰後斯業の不振を來し、其の回復容易ならず、甘蔗糖の産額のみにては各國如何に其増收を計るも到底世界の需要を満すに至らず。今參考迄に戦前及戦後の甘蔗糖(粗製糖及精製糖とも)の各國産出額を示せば(單位噸)

國 別	一九一三—一四年	一九一四—一五年	一九一八—一九年	一九一九—二〇年
キユーバ	二,五八一,二〇〇	二,六四九,五〇〇	三,九七一,八〇〇	三,七三〇,一〇〇
印 度	二,〇五二,〇〇〇	二,一八二,〇〇〇	二,二〇〇,〇〇〇	二,六五一,〇〇〇
ジャバ	一,四〇七,六〇〇	一,三八二,八〇〇	一,七一九,四〇〇	一,三二五,八〇〇
ハワイ	五四六,四〇〇	五七六,八〇〇	五三六,〇〇〇	五〇五,五〇〇
ホルトランド	三二五,〇〇〇	三〇九,四〇〇	三六二,六〇〇	四三三,八〇〇
マウリシヤス	二四五,五〇〇	二四五,八〇〇	二四八,八〇〇	二三五,〇〇〇
日 本	二〇四,〇〇〇	二六二,〇〇〇	四一五,七〇〇	二八三,五〇〇
其他 諸國				
全世界合計	九,八七七,〇〇〇	一〇,一三五,〇〇〇	一一,九八六,六〇〇	一一,五四八,七〇〇

◎各國の甜菜糖産額 戦前及戦後の比較

國 別	一九一三—一四年	一九一四—一五年	一九一八—一九年	一九一九—二〇年
獨 逸	二,四一七,三〇〇	二,二二四,四〇〇	一,一八八,三〇〇	六七五,〇〇〇

塊 露及 米合 其他 全世 界合 計	一、四九八、七〇〇 一、五四一、六〇〇 六五四、八〇〇 七、九六二、九〇〇	一、四一九、三〇〇 一、七六五、二〇〇 六四一、七〇〇 七、三三九、五〇〇	六三〇、〇〇〇 三〇二、九〇〇 六七九、四〇〇 三、五九四、二〇〇	五二六、五〇〇 二〇二、五〇〇 六五三、〇〇〇 三、〇八九、六〇〇
--------------------------------------	--	--	--	--

一九一三—一四年には甜菜糖は全世界砂糖産額の四割四分六厘を示したるが、一九一九—二〇年には僅に二割一分一厘に過ぎざるに至れり。之甜菜糖主要産國たる中歐諸國の戦後に於ける不振に淵由するものなり。而して甘蔗糖生産國にては好機逸す可らずとなし、各々其砂糖生産高の増加を計り來りたる處、一九一三—一四年以後年々僅に約一百五十萬噸の増収を見たるに過ぎず。然るに世界の砂糖消費額は年と共に増加しつゝあり。最近の産出統計を見るに一九二二—二三年度は甘蔗糖及甜菜糖併せて一千七百九十三萬三千噸にして、之を一九二一—二二年度の一千七百六十六萬二千噸に比すれば二十七萬一千噸の増収なり。今國別に之を見ればキューバ糖産額は一九二二—二三年度に於て前年度の三百九十九萬六千噸に對し三百六十一萬噸、ハワイ糖産額は前年度の五十萬二千噸に比し四十五萬三千噸なり。又ポルトリコ糖は一九二二年度の三十六萬二千噸に比し一九二三年度には三十三萬八千噸の産出を見たり。此等各國に於ける甘蔗糖産額はキューバ、ジャバ、ハワイ、ポルトリコ何れも年々殆んど一九一八—一九年

度の産額と大差なきは、各國何れも其生産能力の極度に達せる證據と見るを得べし。(未完)

其他

□錫蘭に於ける護謨道路築造試験

最近當地へ到來せし報導に據ると、錫蘭に於ては現時護謨専門家に依つて、護謨を築道主要材として使用する試験が行はれつゝある由である。安値なる護謨硬化法は發見せられたにも拘はず、築道主要材としての護謨使用試験は、今日に到る迄失敗を重ねて來たが、併し、政府化學者等は依然該方面に向つて熱心なる努力を持續しつゝありとの事である。而して、衆望は最初彼の「ラバー・カーペット」の上に集中せられた。「ラバー・カーペット」とは、先づ道路面に稀薄なる護謨汁を流布し、次にホワイト・チップを厚く其の上に被ふて作るものであつて、之のホワイト・チップは、恰も吸墨紙の如き作用をなし護謨汁を吸収するのである。該道路は極めて柔軟なる組織である事が保證された。

尙ほ亦、錫蘭に於ける他の諸所では煉瓦の上を純護謨で包被する試験も行はれつゝあるが、該法は非常に多額の費用を要するとの由である。(マニラ、マイアムス一月二十七日)



□佛領老撾及廣洲灣人種別人口一覽表 (其二)

省名	種族名	歐洲人		支那人	カー人	ユン人 及 ムア人	タイ人	苗人及 スリ 人	其他	合計
		本項未調	計							
Savayvane		1	1						1	2
Savannakhet		1	1						1	2
Dalg. de Tchepone		1	1						1	2
Tran-Ninh		1	1						1	2
Vientiane		1	1						1	2
第五軍政區域		1	1						1	2
總計		1	1						1	2
廣洲灣		1	1						1	2
歐洲人		1	1						1	2
安南人		1	1						1	2
支那人		1	1						1	2
亞細亞人		1	1						1	2
合計		1	1						1	2

備考 (一)フウタイ人を含む。(二)スウエーデン、東埔寨人五、日本人一。(三)スウエーデン、印度人二、東埔寨人一。(四)ビルマ人二、印度人二、東埔寨人三を含む。(五)タイ、ムア人を含む。(六)フエ、ムア人一、四三二、印度人一、東埔寨人三を含む。(七)ホス人四、五〇〇、アロス人四、二〇〇。